

千葉県生涯大学校関係資料

目 次

1	千葉県生涯大学校について……………	1
2	管理運営体制について……………	6
3	運営経費について……………	10
4	入学者数と学生数について……………	11
5	改革の効果と課題について……………	13
6	課題に対する対応策について……………	17
7	（資料1）市町村アンケート結果……………	20
8	（資料2）市町村における生涯学習の状況……………	24
9	（資料3）卒業生アンケート結果……………	26
10	（資料4）地域活動コーディネーターアンケート結果……………	33
11	（資料5）卒業生の組織化の状況……………	36
12	（資料6）高齢者人口と高齢化率の推移と将来推計……………	40
13	（資料7）高齢者世帯数と要介護等高齢者数の将来推計……………	41
14	（資料8）高齢者の社会参加と地域活動の意義……………	42
15	（資料9）高齢者の「学び」と「世代間交流」……………	44
16	（資料10）千葉県生涯大学校マスタープラン概要版……………	46
	（別冊1）千葉県生涯大学校マスタープラン	
	（別冊2）千葉県生涯大学校設置管理条例	
	（別冊3）千葉県生涯大学校管理規則	

1. 千葉県生涯大学校について

(1) 設置目的

千葉県生涯大学校は、「高齢者が新しい知識を身につけ、広く仲間づくりを図るとともに、学習の成果を地域活動に役立てるなど社会参加による生きがいの高揚に資すること」を設置目的としています。

(2) 学園所在地について

京葉学園（千葉市中央区）、東葛飾学園（流山市、松戸市）、東総学園（銚子市、神崎町）、外房学園（茂原市、勝浦市）、南房学園（館山市、木更津市）の5学園11教室で運営しています。

(3) 学部、定員及び修業年限

地域活動学部	730名	2年間（週1回）
造形学部園芸コース	630名	1年間（週1回）
陶芸コース	250名	1年間（週2回）
地域活動専攻科	100名	1年間（週1回）

（地域活動専攻科は、地域活動学部の卒業生のみ入学可。）

(4) 入学可能年齢

入学年齢を55歳以上からとし、より多くの人材が早い段階から地域デビューのための準備をし、地域活動へ参加できるようにしています。

(5) 授業料（他に教材費等の負担あり。消費税増税により見直し予定）

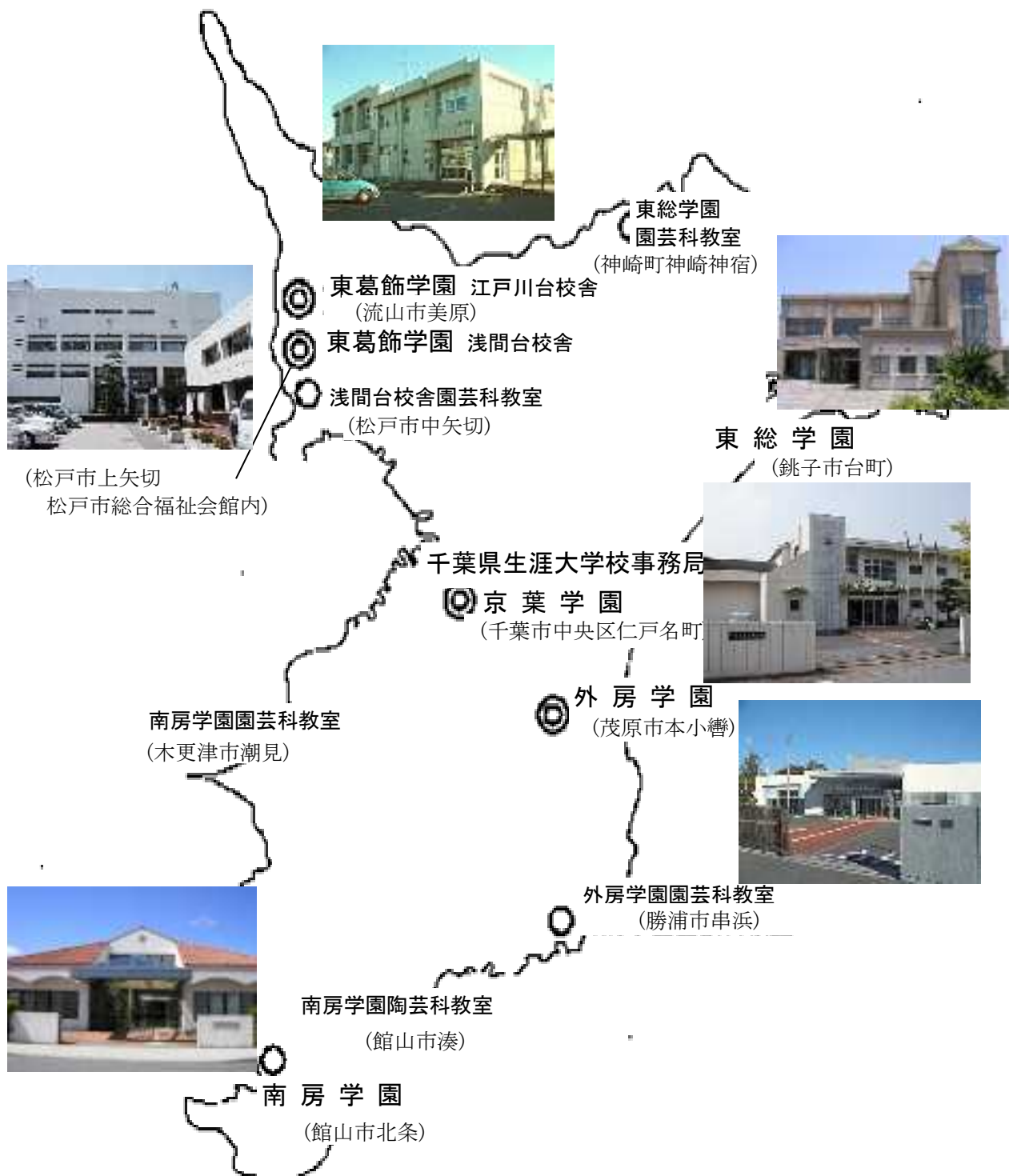
地域活動学部	年額15,400円
造形学部園芸コース	年額27,700円
陶芸コース	年額55,500円
地域活動専攻科	年額15,400円

(6) 卒業生への地域活動支援

地域活動に意欲のある卒業生等と担い手を必要とする地域団体とを、マッチングすることにより、卒業生等の地域活動への参加を支援するため、各学園に計9名のコーディネーターを配置しています。

(7) 学園の現況

- 体 制
 - ・昭和50年開校（設置管理条例 昭和54年2月制定）
 - ・県内5学園6校舎（11の施設）に約2,440名が学んでいる
 - ・地域活動学部、造形学部（園芸コース・陶芸コース）、地域活動専攻科
- 管理運営 平成18年度より指定管理による管理運営
 - ・平成28～30年度（3年間） 学校法人 植草学園
 - ・平成25～27年度（3年間） ハリマビシステム・植草学園共同事業体
 - ・平成24年度（1年間）東京リーガルマインド・東急コミュニティー共同事業体



(8) 千葉県生涯大学校と地域の連携イメージ



①千葉県生涯大学校では、生きがいづくりや仲間づくりとともに、地域で求められる課題に対応した学習を行います。

②コーディネーター(各学園設置9名)が、在学生、卒業生の地域活動を支援します。

③地区社協やボランティア団体への加入、または在学中にできた仲間とともに団体を立ち上げ、地

（９）生涯大学校の必要性

① 地域活動を行うことで、自らの介護予防につながる

厚生労働省の「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン」の中でも、「地域で社会参加できる機会を増やしていくことが、高齢者の介護予防にもつながっていく。できる限り多くの高齢者が、地域で支援を必要とする高齢者の支え手となっていくことで、より良い地域づくりにつながる。」としており、生涯大学校の役割の一つである「地域活動の担い手の育成」は、地域の支え合いの担い手としてだけではなく、高齢者自らの介護予防にもつながっている。

② 「生きがい」・「健康」・「仲間づくり」

「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査（平成 20 年）」（資料 8）によると、地域活動に参加したことのある人のうち、「生きがいを感じている」、「多少感じている」人が合わせて 9 割強となっている。

また、「同調査（平成 25 年）」（資料 8）によると、高齢者が地域活動に参加してよかったこととして、「新しい友人を得ることができた」「生活に充実感が出来た」「健康や体力に自信がついた」が上位 3 位を占める。

一方で、地域活動を行うための必要条件としては、「自分自身が健康であること」（58.6%）が最も多く、次いで「一緒に活動する仲間がいること」（40.8%）であった。（同調査）

生涯大学校の役割のひとつである「仲間づくり」や「健康づくり」は、地域活動に不可欠なものであり、また、地域活動を通して、新たな仲間づくりや、健康、生きがいづくりへとつながっている。

③ 県内市町村において、類似の事業は少ない

県内市町村における、高齢者向け講座の状況をみると、多くが、月 1～2 回の開催である。

千葉県生涯大学校と類似の事業を実施しているものに、千葉市の「ことぶき大学校」があるが、「ことぶき大学校」のボランティア実践コース福祉健康学科では、福祉（主に介護）や健康に特化しており、また、施設体験等の実習の時間もことぶき大学校は 2 日前後、生涯大学校は 1 週間前後（27 年度）となっている。

資料 2 「市町村における生涯学習の状況」より

④陶芸コース：民間と比べて廉価な受講料と高度な講師

陶芸教室における受講料の相場は、

民間の教室 →月 8 回 16,800 円程度（焼成費・材料費込）

生涯大学校 →月 8 回 5,000 円程度（焼成費・材料費込）

※材料費は年 5,000 円で積算

と民間の 1/3 程度の受講料となっている。

また、現在、生涯大学校の陶芸コースは、陶芸家の故土肥満氏（日展委嘱で県美術会名誉会員）の弟子が講師を務めており、非常にレベルの高い内容となっている。

さらに、平成 27 年 6 月には、陶芸コース学生の発案で、大学生と稲毛海岸の清掃を行う世代間交流ボランティアを行うなど、地域活動の取組みも始まっている。

【参考】

県内の陶芸教室の受講料例							
							(単位:円)
	所在地	回数	月謝	入会金	材料費	年間	
千葉県生涯大学校		月8回	年 55,500 月 4,625		5000	60,500	焼成費込
教室A	千葉市	月8回換算	月 16,000	5,000		197,000	粘土代別途
教室B	佐倉市		月 16,000	10,000		202,000	焼成費別途(300~1000円)
教室C 電動ロクロ	市原市		月 16,000	5,000		197,000	焼成費・粘土代別途
教室C 手びねり	市原市		月 10,000	5,000		125,000	焼成費・粘土代別途
教室D	柏市		月 22,400		5500	274,300	

2. 管理運営体制について

(1) 定 員 (1 学年当たり)

(単位：人)

学 園 名	地域活動 学 部	造形学部		地域活動 専 攻 科	計
		園 芸 コース	陶 芸 コース		
京葉学園	2 1 0	2 1 0	7 5	1 0 0	5 9 5
東葛飾学園	2 0 0	—	7 5	—	2 7 5
東葛飾学園浅間台教室	1 0 0	2 1 0	—	—	3 1 0
東総学園	7 0	7 0	2 5	—	1 6 5
外房学園	1 0 0	7 0	5 0	—	2 2 0
南房学園	5 0	7 0	2 5	—	1 4 5
計	7 3 0	6 3 0	2 5 0	1 0 0	1, 7 1 0

※ 修業年限-----地域活動学部：2年、造形学部・地域活動専攻科：1年

(2). 授業日数・授業時間

①授業日数

ア) 地域活動学部・造形学部園芸コース・地域活動専攻科

毎週1日（年間37日程度）

イ) 造形学部陶芸コース

毎週2日（年間74日程度）

②授業時間

午前10時から12時まで、午後1時から3時までの4時間

(3) 授業料及び諸経費

①授業料（28年度、（ ）内は29～30年度）

ア) 地域活動学部 年額 15,400円以内（15,700円以内）

イ) 造形学部園芸コース 年額 27,700円以内（28,200円以内）

ウ) 造形学部陶芸コース 年額 55,500円以内（56,500円以内）

エ) 地域活動専攻科 年額 15,400円以内（15,700円以内）

※学年の中途において退学する者の授業料は、月割計算とする。この場合、退学した月の分は、授業料に算入する。

②諸経費

実習に要する材料費、校外学習に要する交通費・宿泊費等は、学生が負担する。

(4) 所掌事務

①事務局

- ア) 大学校の事務に関する事
- イ) 大学校の人事及び予算及び執行の事務に関する事
- ウ) 大学校の広報に関する事
- エ) 各学園との連絡調整に関する事
- オ) 学生の募集及び入学者選考並びに卒業の認定等に関する事
- カ) 学習計画の作成、登校日及び授業時間の決定並びに講師の委嘱等に関する事

②学園

- ア) 学園の管理及び庶務に関する事
- イ) 学生に係る記録に関する事
- ウ) 学生の指導及び学生自治会との連絡調整に関する事
- エ) 学習計画に基づく所定の課目の教授に関する事

(5) 組織等

- ① 大学校に総長、副総長、事務総長、事務局長、庶務部長、教務学生部長、学園長、副学園長、教授、准教授、講師、技術員、主査、主事及び事務補助員を置く。
- ② 総長は、千葉県知事の職にある者をもってあて、その職務は大学校を統轄する。
- ③ 副総長は、千葉県健康福祉部長の職にある者をもってあて、その職務は総長を補佐する。
- ④ 事務総長は、大学校の事務を統轄する。
- ⑤ 庶務部長は、上司の命を受け、事務局及び学園の庶務を掌理する。
- ⑥ 教務学生部長は、上司の命を受け、学習計画の作成、講師の委嘱等教務に関する事務及び学生の募集、指導、卒業認定等学生に関する事務を掌理する。
- ⑦ 事務局教授は、学園において所定の課目を教授する他、上司の命を受け、事務局及び学園の事務並びに他の学園の学習内容の指導を行う。
- ⑧ 学園長は、上司の命を受け、学園の教務及び事務を掌理する。
- ⑨ 副学園長は、上司の命を受け、学園長を補佐し、学園の事務を掌理する。
- ⑩ 教授及び准教授は、学園において所定の課目を教授する他、上司の命を受け、学園の事務及び学習内容の指導を行う。
- ⑪ 講師は、学園において所定の課目を教授する。
- ⑫ 主査及び主事は、上司の命を受け、業務を処理する。
- ⑬ 技術員及び事務補助員は、上司の命を受け、業務を補助する。

(6) 主な行事等

入学式及び卒業式

(7) 職員配置体制

平成 27 年 4 月 1 日現在

区 分	事務総長	局・部次長	教 授	准教授	講 師	主 査	主 事	技術員	事務補助	計
事務局	1	4(兼1)	3			2			3	13(兼1)
学園別・科別	学園長	副学園長	教 授	准教授	講 師	主 査	主 事	技術員	事務補助	計
京葉学園	1	1(兼1)				3			2(兼2)	7(兼3)
園芸科			5(兼1)					4		9(兼1)
陶芸科			2	1	1					4
計	1	1(兼1)	7(兼1)	1	1	3		4	2(兼2)	20(兼4)
東葛飾学園										
浅間台教室		1							2	3
園芸科			3					2	2	7
江戸川台校舎	1					1	1		2	5
陶芸科			2	2	1			2		7
計	1	1	5	2	1	1	1	4	6	22
東総学園										
園芸科	1						1		1	3
園芸科			1					1	1	3
陶芸科				1	1					2
計	1		1	1	1		1	1	2	8
外房学園										
園芸科	1						1		1	3
園芸科			1					1	1	3
陶芸科			1		2(兼1)					3(兼1)
計	1		2		2(兼1)		1	1	2	9(兼1)
南房学園										
園芸科	1						1		1	3
園芸科			1					1	1	3
陶芸科			1		1					2
計	1		2		1		1	1	2	8
合 計	5	2(兼1)	17(兼1)	4	6(兼1)	4	4	11	14(兼2)	67(兼5)
総 計	12(兼2)		20(兼1)	4	6(兼1)	6	4	11	17(兼2)	80(兼6)

(8) 学園別授業等日程表 (27 年度)

学園		課 程	月	火	水	木	金	土	日
京 葉	地域活動学部		1 年 A	2 年 A	1 年 B	2 年 B			
	造形学部	園 芸			1 年 B		1 年 C	1 年 A	
		陶 芸	1 年 A	1 年 A	1 年 B	1 年 B			
	地域活動専攻科						1 年		
東 葛 飾	江戸川台	地域活動学部	1 年 A	2 年 A	1 年 B	2 年 B			
		造形学部 陶 芸	1 年 A	1 年 A	1 年 B	1 年 B			
	浅間台	地域活動学部				1 年	2 年		
		造形学部 園 芸		1 年 C		1 年 A		1 年 B	
東 総	地域活動学部			1 年	2 年				
	造形学部	園 芸		1 年					
		陶 芸		1 年			1 年		
	その他 (クラブ活動等)					○			
外 房	地域活動学部			2 年	1 年				
	造形学部	園 芸			1 年				
		陶 芸		1 年 A	1 年 B	1 年 A	1 年 B		
	その他 (クラブ活動等)		○				○		
南 房	地域活動学部			1 年	2 年				
	造形学部	園 芸		1 年					
		陶 芸		1 年			1 年		

※東葛飾学園浅間台校舎については、松戸市総合福祉会館を本校舎として扱う。

※地域活動学部及び地域活動専攻科については、原則として本校舎で授業を行う。

※造形学部園芸コース・陶芸コースのうち、教養科目については各学園本校舎(浅間台園芸コースについては、浅間台校舎または江戸川台校舎)で行う。

【クラブ活動】

学生が個々の趣味を活かし交友関係を深め人生を豊かにするため、自主的に行う課外活動として、授業や実習の他に行われているクラブ活動があり、希望により参加できる。

〔主なクラブ活動の種目〕 ※ 学園によって異なります。

詩吟、書道、俳句、短歌、絵画、ダンス、皮革工芸、写真、囲碁等

3. 運営経費について

(単位：千円)

収入			25 年度 (※)	26 年度	27 年度 (見込み)
	指定管理料		303,190	267,428	267,428
	利用料収入		59,569	39,639	37,029
	雑収入		482	606	561
	合 計		363,241	307,673	305,018

支出			25 年度	26 年度	27 年度 (見込み)
	人件費 (職員給与等)		165,293	148,273	150,680
	事業費 (報償費・需用費・賃金等)		121,033	115,007	116,300
	管 理 費	事務費 (旅費・役務費・委託料)	22,468	21,675	22,600
		管理経費	54,447	22,718	15,438
	合 計(A)		363,241	307,673	305,018

学生数 (定員)(B)	3,860 人	2,440 人	2,440 人
学生 1 人あたり年間経費 (A/B)	94,103 円	126,095 円	125,007 円

※平成 25 年度は、

旧カリキュラム(一般課程(福祉課・生活科・園芸科・陶芸科)及び、専攻課程(社会専攻科、園芸専攻科、陶芸専攻科))の 2 年次と、

新カリキュラム(地域活動学部の 1 年次、造形学部(園芸コース・陶芸コース)、地域活動専攻科の学生が混在している。

4. 入学者数・学生数の推移について

(1) 入学者数の推移（学園別）

学園名	定員	27 年度		26 年度		25 年度	
		入学者数	充足率	入学者数	充足率	入学者数	充足率
京葉学園	495	245	49.5%	321	64.8%	350	70.7%
東葛飾学園	585	419	71.6%	520	88.9%	561	95.9%
東総学園	165	132	80.0%	146	88.5%	154	93.3%
外房学園	220	168	76.4%	164	74.5%	157	71.4%
南房学園	145	111	76.6%	104	71.7%	132	91.0%
小 計	1,610	1,075	66.8%	1,255	78.0%	1,354	84.1%
地域活動専攻科	100	26	26.0%	53	53.0%	104	104.0%
合 計	1,710	1,101	64.4%	1,308	76.5%	1,458	85.3%

(2) 入学者数の推移（学部別）

学科名		定員	27 年度		26 年度		25 年度	
			入学者数	充足率	入学者数	充足率	入学者数	充足率
地域活動学部		730	357	48.9%	505	69.2%	609	83.4%
造形学部	園芸	630	504	80.0%	544	86.3%	526	83.5%
	陶芸	250	214	85.6%	206	82.4%	219	87.6%
地域活動専攻科		100	26	26.0%	53	53.0%	104	104.0%
合 計		1,710	1,101	64.4%	1,308	76.5%	1,458	85.3%

(3) 入学者数の推移（男女別）

区分	27 年度	26 年度	25 年度
男性	617 (56%)	760 (58%)	856 (59%)
女性	484 (44%)	548 (42%)	602 (41%)
合計	1,101	1,308	1,458

(4) 学生数の推移

		27 年度	26 年度	25 年度
京葉学園	1 年	271	374	454
	2 年	70	110	592
	計	341	484	1,046
東葛飾学園	1 年	189	233	275
	2 年	135	161	387
	計	324	394	662
東葛飾学園 浅間台教室	1 年	230	287	286
	2 年	73	89	257
	計	303	376	543
東総学園	1 年	132	146	154
	2 年	46	50	167
	計	178	196	321
外房学園	1 年	168	164	157
	2 年	59	57	180
	計	227	221	337
南房学園	1 年	111	104	132
	2 年	25	33	119
	計	136	137	251
1 年 計		1,101	1,308	1,458
2 年 計		408	500	1,702
合 計		1,509	1,808	3,160

※平成 25 年度は、改革前の旧カリキュラムと新カリキュラムが混在しており、
定員は 3,860 名である。

〔 ※各年度 4 月 1 日現在
単位：人 〕

5. 改革の効果と課題について

I 改革の効果

(1) 卒業生の地域活動への取組みと意識醸成（資料3「卒業生アンケート結果」より）

- ① 入学前に「地域活動を行っていない」者の85%が、入学後に、地域活動を行なう（「やる気があるが未定」を含む）と意向を示している。
- ② 既に地域活動を行っている者のうち、実際に地域活動を行っている分野としては、「町内自治会・地域づくり・まちづくり」が約35%、次いで、「福祉関係」が約33%となっている。
- ③ 卒業後の地域活動への実践意欲については、約83%の者が意欲は「大いにある」、「ある」としている。

(2) 市町村との連携について

①市町村の意向（資料1「市町村アンケート」より）

- ア) 高齢者を対象とした生涯学習のための専用施設を「設置していない」市町村が、87%である。
- イ) 生涯大学校との連携については、68%の市町村が「連携」に前向きであるが、「連携したいが活用方法が分からない」が42%に上った。
- ウ) 生涯大学校の卒業生の地域活動状況については、約8割の市町村が「活動実態を知らない。
- エ) 生涯大学校の卒業生に期待する地域の課題については、70%が「ある」と回答し、期待する分野としては、「介護保険における地域の支え合い事業」、「高齢者、障害者支援」、「老人クラブの役員」の順だった。

②コーディネーターによる卒業生情報と地域活動情報のマッチングについて

- ア) 卒業生等からの相談件数
25年度 112件 → 26年度 184件（前年比 64%増）
- イ) マッチング件数
25年度 90件 → 26年度 130件（前年比 44%増）
- ウ) 求人情報収集件数（市町村からの地域活動の情報）
25年度 100件 → 26年度 123件（前年比 23%増）

③県・市町村・学園等による連絡会議の開催について

- ア) 市町村との情報交換を行う連絡強化
25年度実績 9回 → 26年度実績14回（+5回）
- イ) 地元自治会との連携
25年度実績12回 → 26年度実績13回（+1回）
- ウ) 卒業生団体との連携
25年度実績39回 → 26年度実績40回（+1回）
- エ) 県と指定管理者との連絡会議
25年度実績 9回 → 26年度実績 9回

(3) 入学年齢の引き下げについて（55歳から59歳の入学者数）

25年度は54名（入学生比 3.7%）

26年度は61名（同 4.6%）

27年度は56名（同 5.0%）

(4) 卒業生の組織化（資料5「卒業生の組織化の状況」より）

① 卒業生で組織された団体は、平成26年7月調査時点で、39団体であり、会員相互の親睦を図るとともに、ボランティア活動等を行っている。

② 全学園の卒業生から成る「卒業生学習会（約2000名）」の活躍や、四街道市や市原市における活動事例や組織化の好事例を県内全域に広げるため、卒業生の更なる組織化を進めている。

※ 地域活動専攻科第1期生が校友会を設立（平成26年度）

※ 銚子市の卒業生で「銚子学友会」（120名）を設立（平成26年度）

※ 八千代市在住の卒業生主体で「校友会」の立上げ準備中（平成27年度）

③ また、卒業生の所属する地域ボランティア活動団体数は、生涯大学校の調べで、把握しているだけでも140団体を超え、多く団体に卒業生後にボランティア活動をしている。

(5) 大学等の教育機関との連携

① 講師派遣の依頼

平成25年度：千葉大学ほか11大学（件数205件、講師数27人）

平成26年度：千葉大学ほか11大学（件数151件、講師数34人）

（平成26年度実績）

	大学名	件数	講師数
1	千葉大学	18	5人
2	植草学園大学	40	4人
3	千葉科学大学	3	3人
4	聖徳大学	15	5人
5	淑徳大学	3	2人
6	敬愛大学	14	1人
7	三育学院大学	5	1人
8	県立保健医療大学	8	3人
9	麗澤大学	3	1人
10	和洋女子大学	1	1人
11	日本大学	4	1人
12	国際武道大学他	37	7人
計		151	34人

② 公開講座の活用

平成 25 年度：植草学園公開講座に 22 名参加

平成 26 年度：植草学園公開講座に 24 名参加

(平成 26 年度実績)

	講 座 名	参加者数
1	特別支援教育支援員・認証講座	10 名
2	知的障害者移動介護従事者養成研修講座	3 名
3	心理劇（ロール・プレイング）を体験しよう	1 名
4	認知症サポーター養成講座	2 名
5	ポジティブに生きる	1 名
6	ピア・サポート トレーナー養成講座	7 名
計		24 名

(6) 資格取得の支援 ※①については平成 26 年度後期から拡充

- ① 救急員養成講習、健康生活支援員等の日本赤十字社の認定資格
- ② 地域活動園芸技能者、地域活動陶芸技能者の認定と技能修了証の授与
- ③ 地域活動コーディネーターの認定
- ④ ご当地資格の取得支援（情報提供）

(7) 地域との交流

(平成 25 年度実績)

学 園 名	事 業 名	実 績
京葉学園	県立医療大学生徒との意見交換	1 回
	除草等の手伝い(千葉県盲学校)	年数回
東葛飾学園	清掃・洗濯等の手伝い(児童養護学校・船橋)	週 1 回
	職員の補助として手伝い(こども発達センター)	月 10 日程度
東総学園	千葉科学大学生と防災に関する意見交換	1 回

(平成 26 年度実績)

学 園 名	事 業 名	実 績
京葉学園	近隣病院のイベント支援	2 回
	老人ホーム等施設慰問	3 回
	市イベントへの参画	1 回
	除草等の手伝い	年数回
東葛飾学園	市民活動フェスタ等イベントへの参画	2 回
	スポーツ大会等への支援・参加	3 回
	福祉施設等への手伝い・支援	年数回
東総学園	市主催産業まつり等への参画	4 回
外房学園	エコ・フェスタ等イベントへの参画	2 回
南房学園	市福祉祭りへの参画	1 回

【参考１】平成２６年度空き教室活用状況

- ① 開放日数 170日
- ② 団体数（延） 396団体（すべて卒業生）
- ③ 人数（延） 7,582人

【参考２】平成２６年度自主講座の状況

平成２６年度自主講座開催状況（８講座 ／ 参加人数 1020名）

講座名	開催日程	定員	人数	内容
園芸自主講座	１年間	630	605	全学園 前期・後期で実施
陶芸自主講座	１年間	255	259	全学園 前期・後期で実施
傾聴ボランティア講座	平成 26 年 7 月 6 日 から5回	30	51	京葉学園で実施
PC 講座	平成 26 年 8 月 29 日	80	21	植草学園で実施
料理教室	平成 27 年 3 月 4 日	25	23	東総学園 (そば打ち)
料理教室	平成 27 年 2 月 6 日	30	30	外房学園 (郷土料理)
料理教室	平成 26 年 12 月 18 日	20	15	南房学園 (地元食材簡単料理)
料理教室	平成 27 年 1 月 22 日	20	16	南房学園 (地元食材簡単料理)

Ⅱ．課 題

入学者数の減 （定員 1,710 名）

25 年度 1,458 名 → 26 年度 1,308 名 → 27 年度 1,101 名
充足率(85%) (76%) (64%)

6. 課題に対する対応策

入学者数の減といった課題を踏まえ、平成 28 年度からの次期指定管理者の募集に際し、以下のとおり見直しを行った。

- 「演習・実習」を多く取り入れた魅力的なカリキュラムの設定
- 「自発的な生きがい・健康・仲間づくり」の場の提供
- 資格取得につながる支援
- 地域活動専攻科における自らの経験を活かした「起業」等の学習内容の提供
- 地域活動へのつながりを持たせた実践的な講座内容
- 現役世代が勤務しながら学びやすい「休日コース」の設定

1. 見直しの方向性

(1) カリキュラムの魅力アップ

- ①座学での講義が多い、実習を増やして欲しい
- ②面白味がない
- ③資格取得につながる講座を受けたい

(本年 2 月に卒業見込み者アンケートの自由記述欄から)

(2) 講義と地域活動へのつながりを持たせ、実践的な内容とする。

2. 対応策

(1) 魅力的なカリキュラムへの見直し

【地域活動学部】

①校内演習・校外実習の増

「地域活動につながる実習体験」を学習の柱に位置付け、これまでの講義中心から、グループで学べる実習・演習の時間を多く設けることとし、地域の実情に応じ必要とされる実践力を養えるよう学習内容を充実させることとしました。

②「自発的な生きがい・健康・仲間づくり」の場として、地域活動科目の中に、調理や陶芸、健康づくりなどの講座を 1 年次に 9 単位、2 年次に 7 単位程度設けることとした。

1 年次（健康づくり） 5 単位→（健康づくり、調理実習、陶芸等） 9 単位
2 年次（健康づくり） 5 単位→（健康づくり、調理実習、陶芸等） 7 単位

③ 資格取得につながる講座の設定 (27 年度からの継続)

資格取得講座として、受講することで資格取得につながる講座を必ず年間 8 単位設けることとした。

【地域活動専攻科】

地域活動の中でも一步踏み込み、みずからの経験を活かし、「起業」や「地域活動団体設立」などの企画、実践力を養うとともに、演習や NPO 等の地域活動団体における実践活動を通して、団体の運営方法等について、学ぶこととした。

(2) 地域活動へつながる実践的な学習内容について

地域活動学部 2 年次においては、学生や地域のニーズを踏まえたコース設定をするとともに、例えば「介護実習コース」など、各コース別の実践的な活動を通して、卒業後の速やかな地域活動につなげることとした。

(3) その他

京葉学園及び東葛飾学園において、60 歳未満の現役が勤務しながら学べるよう、「休日コース」を 1 クラス設けることとしました。

公募時カリキュラム（例）

カリキュラム時間割（例）						
学部 コース	目的・備考	大分類	中分類	単位数の目安 ※（ ）内 うち実習単位数の目安		主な学習内容
地域活動 学部	1年次は、コミュニケーションをとりながら、楽しんで行える実習や体験を通して、広く地域活動に必要な知識技能を学び、自らが「何ができるか」、「どんな地域活動をしたいか」という、気づきの場とするとともに、実践活動を通して、地域の課題等に対する対応力を身につけることを目的とする。	共通科目	教養科目	1年	2年	学校行事
				5	5	
				6	6	(4) 地域社会で活動するために必要な知識に関する学習
		小計		11	(0)	11 (4)
	2年次は、地域活動の担い手として活動するために必要な知識・技能の修得や、地域活動をマネジメントする意識付けの場とする。また、学生や地域のニーズを踏まえたコース（例「介護実習コース」）設定をするとともに、各コース別の実践的な活動を通して、卒業後の速やかな地域活動につなげることを目的とする。	専門科目	健康づくり	31	(23)	17 (11)
			地域活動			
		専門科目	福祉	11	(5)	16 (13)
			実践活動（コース別）	21	(21)	30 (30)
		小計		63	(49)	63 (54)
		合計		74		74
コース等	目的・備考	大分類	中分類	単位数の目安 1年		学習の到達目標
造形学部 園芸 コース	園芸と通じた仲間づくり、生きがいづくりを進めるとともに、地域活動につながる実践的なカリキュラムを提供する。	共通科目	教養科目	8		学校行事。千葉県に関すること、地域社会で活動するために必要な知識を身につける。
			健康づくり	4		心身ともに健康に過ごすことを身につける。
			地域活動（入門編）	4		地域活動の基礎的知識を身につける。
			小計	16		
	仲間と共に地域活動について学ぶ学生を受け入れるため、卒業後、地域活動学部に入入学を可能とする。	専門科目	園芸基礎	8		園芸に関する基礎的知識や技術を身につける。
			園芸技術	48		
			校外学習	2		地域交流・見学等により学習効果を上げる。
			小計	58		
		合計		74		
コース等	目的・備考	大分類	中分類	単位数の目安 1年		学習の到達目標
造形学部 陶芸 コース	陶芸と通じた仲間づくり、生きがいづくりを進めるとともに、地域活動につながる実践的なカリキュラムを提供する。	共通科目	教養科目	8		学校行事。千葉県に関すること、地域社会で活動するために必要な知識を身につける。
			健康づくり	4		心身ともに健康に過ごすことを身につける。
			地域活動（入門編）	22		地域活動の基礎的知識を身につける。
			小計	34		
	仲間と共に地域活動について学ぶ学生を受け入れるため、卒業後、地域活動学部に入入学を可能とする。	専門科目	陶磁器基礎	19		陶芸に関する基礎的知識や技術を身につける。
			低火度焼成	11		
			高火度焼成	78		
			校外学習	6		地域交流・見学等により学習効果を上げる。
		小計		114		
		合計		148		
コース等	目的・備考	大分類	中分類	単位数の目安 ※（ ）内 うち実習単位数の目安		主な学習内容
地域活動 専攻科	地域活動学部での学習から一歩踏み込み自らの経験などを活かした「起業」や「地域活動団体設立」など、の企画・実践力を養うこととし、演習やNPO法人等の地域活動団体における実践活動を通して、団体設立・運営管理・財務管理などの知識の修得効率性・効果的な運営方法等を身につけることとする。	教養科目	学校行事	6		学校行事
			教養	5	(1)	指導者としての活動に必要な知識に関する基礎的な学習
		小計		11	(1)	
		専門科目	地域活動の運営技術	40	(40)	指導者として必要な地域活動運営技術に身につける演習
			実践活動（課題別）	23	(23)	NPO等の地域活動団体における活動を実践し、課題把握や効率的な運営方法を探ることにより地域リーダーとして、必要な知識を身につける
		小計		63	(63)	
		合計		74	(64)	